

「ASEAN グローバルプログラム」 に参加して

中 村 大 希
Taiki NAKAMURA
電子情報学科 2年

1. はじめに

私は理工学部の ASEAN グローバルプログラムに参加し、8/26～9/2 はベトナム、9/2～9/6 はシンガポールをそれぞれ訪問し合計 10 日間のプログラムを体験した。今回のプログラムではハノイ工業大学の学生と PBL や南洋理工大学の見学や、Google での講義、シンガポールで活動されている加藤さんの講演会など日本ではできない貴重な経験をさせていただいた。そこで日本でのそれとは異なる文化やルール、言語、考え方に触れられ、さらに自分自身の言語能力の低さや知識の無さを改めて知る機会となった。本編では特に WASABI creation 社と Google 社で伺った話を中心に述べる。WASABI creation 社では「シンガポールの政策で学ぶ多民族社会と国際人材育成」というテーマでお話を聞き、Google 社では Google のビジネスと現状についてのお話を聞かせていただいた。どちらもとてもためになることばかりで将来のキャリアの形成につながることばかりであった。

2. 参加目的

今回このプログラムに参加したのは以前に他の団体で海外に行ったときに物足りなさを感じていたため、また機会があれば海外を見てみたいと思ったのが始まりである。前回の海外渡航ではボランティア活動を行ったが、そのときは田舎の場所中心に活動したのに対して、今回は都市部の活動が主であったため前回とは違う経験が得られるのではないかと考えた。また、このプログラムでは、現地の学生と英語を使ったディスカッションができる点に魅力を感じ、この機会に英語力をアップさせたいと思った。

さらに、海外のビジネスを見ることで日本とは異なるやり方や考え方を知ることができると思ったためこの理工学部のプログラムに参加した。

3. 研修内容

以上の行程のなかで、最も印象的だった、Google 社と WASABI creation 社への訪問について以下に詳しく述べる。

3.1 WASABI creation 社訪問

WASABI creation 代表の方による講演会を聴き、シンガポールについて勉強した。シンガポールの基本情報から文化や憲法、兵役制度、ビジネスのやり方、考え方などたくさんのことを伺った。その中でも特に印象に残っているのは多文化についての考え方であった。今の日本は大半が同じ民族かつ同じ言語を使う集団であるが、シンガポールではもともと多民族国家であり、その異なる文化を互いが認め合う考え方をもっている国であることを知った。そのため、国が作った公営住宅にはいろいろな人種の方が住むようにしているという。実際に町の中では様々な人種の方が一緒に暮らしている様子が見えて日本との違いを感じた。もう一つ印象に残ったのはシンガポールのお金の集め方である。日本も資源がない国であるが、シンガポールはさらに資源もなければ農業をする土地もないため、投資家を誘致するために租税を低く設定することや金融や IT など資源を使わないビジネスで収入を得ているという話を伺い、日本とは環境が違う中でその強みや弱みを生かした色々なビジネスがあることを知ることができた。また、WASABI creation 社は日本とシンガポールの間でビジネスをする人に対して、文化の違いや考え方の違いをもとに、事業のすすめ方をアドバイスしている会社だという。そういったグローバル社会だからこそできるビジネスがあることを改めて実感させられ、これからの会社選びなどに活かすことができるいいお話をきかせていただくことができた。

3.2 Google 訪問

Google のシンガポール支社に訪問させていただき、Google のビジネスの方法とこれからのビジョンについての講演を聞いた。Google の主な収入源は広告収入でありその考え方や、ビジネスの進め方が大変面白かった。まず、Google のビジョンは「世界中の情報を整理し、世界中の人々がアクセスできて使えるようにすること」であり、それを実現するためのメソッドとして「ユーザーのことを第一に考えること、すべてはユーザーから始まる」を掲げている。つまりどんなに儲かるものであってもそれがユーザーのためにならないものであれば行わないという考え方である。ここに Google がここまで大きくなれた秘訣のひとつがあると感じた。広告収入で収益を得ている Google であるが、ただ広告場所を提供しているだけではなく Google が持っているユーザーがこんな検索をしているならこういうものに興味があるという統計データを無料で他社に提供しているという。そうすることで、ユーザーが必要な情報をより簡単に手に入れられるものとなり、Google のメソッドの実現につながっている。Google は今年 16 兆円の売り上げで、前年比で 23% 成長しているという。これだけの大企業にもかかわらずこれだけの成長を毎年し続けていることに驚いた。しかし、それだけ伸びているのにも関わらず、これから 5 年で新たな 10 億人のユーザーを獲得するために日々工夫と開発を進めているという。そのターゲットとなっている国がインド、インドネシア、ブラジルなど、人口が多くこれからの発展が見込める国であり、これらの地域で新たなユーザーを獲得するためにいくつかの問題提起をしながら試行錯誤をくりかえしているという。その一つの例が低収入である人に対する取り組みである。インドでは低収入であ

る人が 85% を占めており、そういった人たちが Google のユーザーとなるには携帯電話をもってもらう必要がある、そのためにはどうするのかを考えなければいけない。しかし、Google にはその問題を解決するアイデアを出す雰囲気が感じられた。それは Google のオフィス内には朝ご飯や昼ご飯を食べるためのビュッフェスタイルの場所が用意されており、食べながらも会議することができたり、ボードゲームがかなりの種類用意されたりしており、メンバーがリラックスした環境の中で仕事ができるように工夫されていて、色々な環境で問題解決のディスカッションができるように感じられた。Google の発展には社内の環境整備にもその理由があると強く感じた。

4. おわりに

今回 ASEAN グローバルプログラムに参加させていただき、前回海外に行ったときには感じることをできなかったことを感じる事ができ、これからのキャリア形成のために重要な経験ができた。自由時間が多くあったため、そこの国の人々の生活や雰囲気を身近に肌で感じる事ができた。また、自分自身もつ常識が通用しない国でものを売るアイデアを考えた経験から、これまで持っていた常識が狭いものであることを改めて感じさせられた。それと同時に自分の可能性であったり、たくさんの将来の選択が自分の思っている以上にあったりするを知り、今後さらにたくさんのことを学んでみたいと強く思った 10 日間であった。また、このプログラムに行かないと出会えないだろう人に出会うことができうれしかったし、自分の将来を豊かにする人との出会いばかりであった。この経験を無駄にせずこれからの将来に活かしていきたい。